

## 第92回資産運用委員会 議事要旨

1. 日時：令和4年3月11日（金）15：00～17：00
2. 場所：KKRホテル東京 11F 丹頂
3. 参加者：神野委員長、臼杵委員長代理、小野委員、小幡委員、白須委員、菅原委員、玉木委員、山崎委員

### 4. 議事要旨

#### (1) 基本ポートフォリオの年次検証等について

事務局から以下の説明があった。

- ・厚生年金保険給付積立金の基本ポートフォリオについて、策定時に想定した運用環境から現実が乖離していないかどうか検証するため、ベンチマーク収益率が基本ポートフォリオ策定時の前提に基づいて算出される想定レンジ内に入っているかどうかを確認した結果、いずれも想定レンジ内にあり、運用環境に著しい乖離があることは認められない。
- ・退職等年金給付積立金の基本ポートフォリオについて、策定時に想定した運用環境から現実が乖離していないかどうか検証するため、財政再計算時の予定利率の設定と財政再計算後の長期金利の推移を比較し、一時的な乖離はありつつも概ね同様に推移していることから、運用環境が大きく乖離しているとは言えない。

これを受けて、現行の基本ポートフォリオは現時点では妥当であり、直ちに見直しの必要はないが、今後も金融市場の状況を注視し、必要に応じて随時検証していくことが重要であるとされた。

#### (2) 令和4年度事業計画について

事務局から、厚生年金保険給付積立金、退職等年金給付積立金、経過的長期給付積立金の運用に関する令和3年度実績見込みと令和4年度事業計画について、それぞれの資金計画とそれを踏まえた資産構成割合と運用利回りの説明があり、事務局案の方向で進めることが確認された。

委員からは、以下の意見等があった。

- ・昨年暮れから相場の下落が続いている。過去の経験も踏まえ観測しつつ、リバランスするなど運用環境の変動に合わせて柔軟に対応してほしい。

- ・運用環境に影響を与える様々な要因があるが、運用判断には感情を持ち込まず、経済合理的な損得で判断することが大事である。
- ・相場が波乱続きで先が読めない。特定のシナリオを前提に運用する必要はないが、一番悪いシナリオを認識したうえで対応を検討することが重要である。
- ・ボラティリティの拡大に対して、一般論としてはリスクを減らすことを考えても良いかもしれないが、相場の回復も十分あり得ることから、動向を注視しつつ現状維持でも良いと思う。
- ・足許の状況に一喜一憂せずに、いま起きつつあることをしっかりと把握し、過去と比較して将来に向けた経験をしっかりと蓄積して行ってほしい。
- ・オルタナティブ投資については、焦らずに実施して行ってほしい。

### (3) 共済独自資産の取扱いについて

事務局から、共済独自資産の取扱いについて説明があり、事務局案の方向で進めることが確認された。

### (4) 厚生年金保険給付積立金の管理運用の方針等の一部変更（案）について

事務局から、厚生年金保険給付積立金の管理運用の方針等の一部変更（案）について説明があり、事務局案の方向で進めることが確認された。

委員からは、以下の意見等があった。

- ・財投預託金を独自のアクティブ運用と認識し、国内債券の評価の際のベンチマークに財投預託金の実現利回りを勘案していたことを取りやめるのは妥当である。

以 上